

市民の声聞きながら計画を進めよ

10月02日 経済観光委員会 太田秀子委員

札幌市が所管する月寒体育館、美香保体育館、星置スケート場の状況について、札幌市アイスリンク基本構想（案）では、月寒、美香保体育館は、建設から50年程度が経過して老朽化が進んでいることに加えて、施設機能面でも課題があるとしています。一方で星置スケート場は、今後20年程度は利用可能とされています。

太田市議は新月寒体育館、新美香保体育館の候補地には、風致地区や里山地域、航空振興地域となっている場所があり、その規制について質問。市の担当者は風致地区では建築物の高さや建蔽率、緑化率について制限を受け、里山地域においては、樹林地率、保全樹林地率に関する制限が定められている。これらの土地利用に関する制限を踏まえつつ適切に対応すると答弁。また、航空振興地域においても、制限の範囲内で施設検討を進めると答弁しました。同市議は「規制緩和などを行って信用を失うことのないように」と指摘しました。

加えて、同市議は旧体育館の跡地利用についても、スポーツ振興の観点から体育館を壊すだけでなく、改修などで、施設数を増やすべきではないかと質問。市の担当者は「民間活力の活用も含め、様々な跡地利用の方法について関係部局と協議調整してまいりたい」と答弁しました。

最後に太田市議は「先ほどの質疑の中でも、跡地利用については地域の意見を聞きながらやっていくというお話がありました。壊してしまってからさあどうするのではなく、今のうちから市民の皆さん地域の皆さんにご意見を伺いながら、皆さんが望むものに作っていただきたい」と指摘し、質問を終えました。

物価高騰の折、路面電車の値上げ方針見直せ

10月02日 経済観光委員会 太田秀子委員

札幌市が路面電車を運営するにあたり、資金不足から路面電車の運賃が30円値上げされることを受けて、太田市議が質問に立ちました。

太田市議は、観光客が利用する割合について質問し、5～6%程度の利用があると、担当者から答弁を受け、「現在利用している方のほとんどが、通勤ですとか通学ですとか、通院、お買い物などの地元の方、市民の皆さんがほとんど」と指摘し、「利用者のほとんどがその通勤などに利用する市民だということ、そうするとほとんどの皆さんが往復で利用する。路面電車を往復で利用すると、片道30円の値上げと言っても、1日60円の値上げになりますから、家計の出費としては毎日のことなのでやはり大きな金額」、「コロナや物価高騰で市民生活は大変」と市民の窮状を訴えました。そこで、「乗車料収入以外の増収策について」と質問。市の担当者は「ラッピング電車や乗客誘致イベントなどを行うパートナー契約、広告料収入の増収に取り組んでいる」と前向きな回答がありながらも、「基幹収入である乗車料収入の確保に向けた取り組みも重要」と運賃の値上げについては見直さないと答えました。

最後に太田市議は「他都市と比べても30円の値上げ幅っていうのは大きい。経営理念では、乗車料金収入以外で増収を期待できる事業へ投資するとか、安全かつ安価で容易に利用できるということなどを掲げている。それらに基づいて、値上げ方針は見直して頂きたい」と訴えました。